

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 6 月 7 日現在

機関番号：32621

研究種目：基盤研究（B）一般

研究期間：2010～2012

課題番号：22320149

研究課題名（和文）

古代イタリア半島港湾都市の地政学的研究

研究課題名（英文）

The Geopolitical Studies on the Harbor Cities in the Ancient Italian Peninsula

研究代表者

豊田 浩志（TOYOTA KOJI）

上智大学・文学部・教授

研究者番号：20112162

研究成果の概要（和文）：

本研究は、古代ローマ時代のイタリア半島の主要港湾都市をローマおよび主要地方根幹都市との連関で、その形成・構造・変遷を経済・文化・宗教的諸側面に注目して追求することで、斬新な新知見を提案することをめざすものである。現地調査において、各調査地点の考古遺跡管理事務所との友好関係を維持することができたこともあって、所期の目的は十分に達成することができた。特に堀教授の3D レザースキャナ技術は効果的で、その精密測量のデータはこれからの研究にも有効活用されるはずである。

研究成果の概要（英文）：

The main theme of this research is the new geopolitical analysis of the formations, functions, and transitions of ancient Roman harbor cities, which had maintained the consumption of the imperial capital Roma and other main cities, especially by taking notice of the economic, cultural and religious aspects.

For our 3 years field researches, our object was enough achieved the brilliant results, in greatest favorable cooperation with the Soprintendenze of Ostia Antica, Pompeii, Pozzuoli (ancient name :Puteoli), and scholars of Aquileia. Particularly, Professor Hori's 3D Laser Scanning Technology had the very successful effect. This precise measurement data will effectively help to be utilized by our future studies.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010 年度	6,100,000	1,830,000	7,930,000
2011 年度	4,400,000	1,320,000	5,720,000
2012 年度	3,600,000	1,080,000	4,680,000
総計	14,100,000	4,230,000	18,330,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・西洋史

キーワード：古代ローマ史、オスティア、ポンペイ、建築史、美術史、考古学、3D 実測、ポツオリ

1. 研究開始当初の背景

本研究は、古代ローマ時代のイタリア半島の主要港湾都市を、その存在意義の本源である帝都ローマおよび主要地方根幹都市との連関を重視し、港湾都市の形成・構造・変遷を、

とりわけ経済・文化・宗教的諸側面に注目しつつ、立体的・多面的に追求することで、従来の研究の再統合を試み、斬新な新知見を提案することをめざすものだった。

リサーチ候補地としては、帝都ローマの外港オスティアの他、ナポリ湾沿岸都市（プテオリ、ポンペイ等）及びアドリア海最奥部アクイレイアを重点にし、現地考古遺跡管理事務所や現地研究者との交流の端緒も得ることで、現地の表面調査を円滑に実施するように努める。

その際、従来の文献的・考古調査資料に依拠するのみならず、先行研究できわめて有効だった最先端光学機器による3D精密測量を実施し、その成果を分野横断的に活用することで研究の新展開を期す。

2. 研究の目的

古代地中海世界各地から帝都ローマに流入した物資や外来思想・宗教の橋頭堡としての港湾都市の地政学的位置づけを、従来の研究水準とは一線を画する新論点から論究する。

3. 研究の方法

従来の伝統的な文献的・考古調査資料に依拠するのみならず、精緻な3D測量のデータをもとにして、可能な限り最新の数値に裏打ちされた根拠に基づいて、分野横断的に活用することで、研究の新展開を期す。

4. 研究成果

本科研の実施により、イタリアのオスティア・アンティカやポンペイ、プテオリの考古遺跡管理事務所との良好な関係を築くことができたし、アクイレイアについても現地調査をになっている研究者と交流することができたので、他の追従を許さないまでに遺跡での実態研究を推進できたと自負している。とりわけ、今後特にポンペイ出土の獣骨研究への端緒をえることができたのは大きな成果と自認している。

研究成果は各研究分担者により以下のように、順次順調に公表されつつある。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計24件）

- 1) 豊田 浩志「北アフリカ、キリスト教からイスラームへ：研究の現状と問題点」三代川寛子編著『東方キリスト教諸教会』*SOIAS: Research Paper Series*（上智大学アジア文化研究所イスラーム地域研究機構、査読無、9、2013、256-259.
- 2) 豊田 浩志、他訳「翻訳：エウトロピウス『首都創建以来の略史』翻訳（第八巻）」『上智史学』査読無、57、2012、179-216.
- 3) 黒田 泰介「ルネサンスの演出家ヴァザーリ」『日伊文化研究』査読無、50、2012、100.

4) 黒田 泰介「再生住宅に関する規制および所有形態 イタリア都市における居住空間のレストア：再生・利活用に関する研究 その1」『日本建築学会大会（東海） 学術講演梗概集 建築計画』査読無、2012、1273-1274.

5) 9) Ed. by Akira SAKAGUCHI, Report of the Investigation of Ostia Antica 2008-2010: Japanese Research Group of Ostia Antica, 査読無、2012、Pp. 140 :

5) Akira SAKAGUCHI, The Seats of Associations in Ostia, 1-10.

6) Koji TOYOTA, L' epigrafia dedicata a Santa Monica ed Ostia Antica, 11-18.

7) Akira Mori, Un rapport sulle indagini storiche di Ostia Antica eseguite 2008-2010, 19-26.

8) Taisuke KURODA, Formation of medieval urban tissue from the reutilization of the Roman aqueduct ruins in Borgo di Ostia, 27-40.

9) Yoshiki HORI, Summary of Laser-scanning in Ostia from 2008 to 2010, 42-58, Appendix, 59-140.

10) 堀 賀貴「古代オスティア住居建築における開口部とその設計原理についての考察」『日本建築学会九州支部研究報告』査読有、51-1、2012、613-616.

11) Yoshiki HORI, Revising the General Map and Applying Laser Scanning Technology in Ostia, *EAA(ヨーロッパ考古学協会) 2012 Annual Meeting*, Helsinki, 査読有、2012、36.

12) Yoshiki HORI, Osamu Ajioka, Measuring urban Structures in Ancient Roman Period in Pompeii and Ostia, *EAA 2011 Annual Meeting*, 査読有、2011、USB版.

13) 加藤 磨珠枝「西洋初期中世における教会堂装飾の諸相」『キリスト教学』査読有、52、2011、195-208.

14) 毛利 晶「オスティア：古代ローマの港町」『歴史と地理』査読無、643、2011、1-14.

15) 黒田 泰介「オクタウィア回廊遺構の住居化について：ピラネージ版画との比較考察」『地中海学研究』査読有、39、2011、67-90.

16) 黒田 泰介「司教館における古代ローマ水道橋遺構の転用について：ボルゴ・ディ・オスティアの都市組織形成過程に関する研究」『日本建築学会大会（関東）学術講演梗概集 建築歴史・意匠』査読無、2011、607-608.

17) 黒田 泰介「ジョルジョ・ヴァザーリのウフィツィ：建築とその表現展」『建築史学』査読無、68、2011、203-208.

18) 豊田 浩志、他訳「翻訳：エウトロピウス『首都創建以来の略史』翻訳（第七巻）」『上智史学』査読無、56、2011、147-184.

19) 堀 賀貴「ポンペイにおける道路排水計画に関する考察(2) ポンペイ・都市機能研究」『日本建築学会計画系論文集』査読有、77-

671, 2012, 165-172.

20) Osamu Ajioka, Yoshiki HORI, Laser Scanning of a Monolithic Column during Processing in Middle Egypt, *4th International Workshop 3D-ARCH 2011*, 査読有, 2011, USB版.

21) 豊田 浩志, 他訳「翻訳: エウトロピウス『首都創建以来の略史』翻訳(第六巻)」『上智史学』査読無, 55, 2010, 141-171.

22) 毛利 晶「古代ローマの市民層とケーンズ(戸口調査)」『西洋史研究』査読有, 新輯第 39, 2010, 1-32.

23) Yoshiki HORI, Drainage System of the Rainwater and the Excess Water Discharged on the Streets of Pompeii, *European Association of Archaeologists*, 査読有, 16, 2010, USB版.

24) 堀 賀貴「オステア・ディオスクロイの家におけるヴィーナスを描いたモザイクの制作過程に関する復元的考察」『日本建築学会計画系論文集』査読有, 77-671, 2012, 173-182.

[学会発表] (計 11 件)

1) Yoshiki HORI, 'Virtual Cities from Laser Scanning: Bringing Pompeii and Ostia to Japan', School Research Seminar Series SPECIAL LECTURE (招待講演), 2013/3/12, University of Leicester (England).

2) Yoshiki Hori, 'Urban fabric at Pompeii: surveying walls and streets by laser-scanning', Leverhulme Lectures Series: Laser Scanning in Roman Archaeology (招待講演), 2012/3/14-28, University of Kent (England).

3) Yoshiki HORI, Object Scanning by Laser: Methodological Considerations. Followed by a Tutorial Demonstrating Object Scanning Results and Machines, Leverhulme Special Seminar Series: Laser scanning in Roman Archaeology (招待講演), 2013/1/31-3/28, University of Kent (England).

4) 豊田 浩志「コンスタンティヌス大帝巨像をめぐる」第11回古代史研究会大会、2012/12/16, 京都大学.

5) 豊田 浩志「312年10月28日のコンスタンティヌス」広島史学研究会大会 西洋史部会, 2012/10/28, 広島大学.

6) 豊田 浩志「315年打刻Ticinum造幣コンスタンティヌス貨幣をめぐる」上智史学会月例会, 2012/7/7, 上智大学.

7) 加藤 磨珠枝「9世紀ローマの反イコノクラスム、聖遺物崇拜をめぐる教会堂装飾: サンタ・プラッセーデ聖堂のモザイクを中心に」美術史学会東支部例会, 2012/7/14, 早稲田大学.

8) 池口 守「獣骨データと表面踏査データ

からみる古代イタリア農畜産業の推移」九州史学会, 2011/12/11, 九州大学.

9) 加藤 磨珠枝「ラファッエレ・ミラーニの「風景の形態」について」国際シンポジウム: 21世紀の風景表象: 風景の構築と自然の認識, 2011/10/1, 立命館大学.

10) Yoshiki HORI, Osamu AJIOKA, Measuring Urban Structures in Ancient Roman Period in Pompeii and Ostia, *EAA2011 Annual Meeting*, 2011/9/16, Oslo.

11) 堀 賀貴, 岩田和也「3Dレーザーキャニング技術の遺跡調査における応用について」第50回日本建築学会九州支部研究発表会, 2011/3/6, 鹿児島大学.

[図書] (計 9 件)

1) 豊田 浩志「歴史研究は刷り込みとの闘い: 後315年ティキヌム造幣所打刻「記念」銀貨をめぐる」上智大学文学部史学科編『歴史家の窓辺』上智大学出版/ぎょうせい, 2013, 193-210(359頁中).

2) 池口 守「オステアとポルトゥス: 首都ローマを支えた双子の港湾都市」本村凌二編著『ローマ帝国と地中海文明を歩く』, 講談社, 2013, 55-69 (415頁中).

3) Yoshiki HORI, Drainage System of the Rainwater and the Excess Water Discharged on the Streets of Pompeii, Ed. by Marta Zuchowska, *The Archaeology of Water Supply, BAR*, 2012, 1-11 (Pp. 115).

4) 黒田 泰介『神奈川県の近代化遺産: 神奈川近代化遺産(建造物等)総合調査報告書』神奈川県教育委員会, 2012, 296.

5) 毛利 晶「第一章 先史時代から古代末期までのガリア」佐藤彰一・中野隆生編『フランス史研究入門』山川出版社, 2011, 29-50 (480頁中).

6) Taisuke KURODA, Olimpia Niglio, *TWELVE HOUSES RESTORED IN JAPAN AND ITALY*, Aracne Editrice, Roma, 2011, Pp. 214.

7) P. ザンデル(豊田 浩志, 他訳)『バチカン・ピエトロ大聖堂下のネクロポリス』上智大学出版/ぎょうせい, 2011, 139頁.

8) E. カプレッティ(加藤 磨珠枝, 他訳)『イタリア巨匠美術館』西村書店, 2011, 5-71 (425頁中).

9) Olimpia Niglio, Koji Kuwakino, Norie Kubotera, Taisuke KURODA, Kazue Akamatsu et al., *Giappone: Tutela e conservazione di antiche tradizioni*, Pisa University Press, 2010, 153-172 (Pp. 256).

[その他]

ホームページ等

<http://history.arch.kyushu-u.ac.jp/index.html>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

豊田 浩志 (TOYOTA KOJI)
上智大学・文学部・教授
研究者番号：20112162

(2) 研究分担者

坂口 明 (SAKAGUCHI AKIRA)
日本大学・文理学部・教授
研究者番号：10153876
堀 賀貴 (HORI YOSHIKI)
九州大学・人間・環境学研究科・教授
研究者番号：20294655
黒田 泰介 (KURODA TAISUKE)
関東学院大学・工学部・教授
研究者番号：70329209
池口 守 (IKEGUCHI MAMORU)
久留米大学・文学部・准教授
研究者番号：20469399
加藤 磨珠枝 (KAKO MASUE)
立教大学・文学部・准教授
研究者番号：40422521
片山 伸也 (KATAYAMA SINYA)
日本女子大学・家政学部・准教授
研究者番号：80440072
毛利 晶 (MOURI AKIRA)
神戸大学・人文学研究科・教授
研究者番号：60174330

(H24：退職のため連携研究者)